



# 洋書輸入協会会報

Vol. 32 No. 7 (通巻374号) 1998年7月

## BookExpo America 1998

シカゴ市、McCormick Place Complex (同会場での開催は連続4回目) で5月30日から6月1日まで開催されたBookExpo Americaは、昔日のABAの時代と違い静かな大会でした。元来 American Booksellers Association Convention (全米書籍商組合大会、通称ABA) は、全米の書店がABAに参加し、開催会場も毎年変えていました。そのため家族ずれで観光を兼ねて参加する書店も多かったようです。各出版社は、顧客を呼び寄せるため独自の飾り付けをしたブースを持ち、セールスマンを動員して秋の新刊書を中心に各顧客に説明し、パーティーを開いて書店とのコミュニケーションの場所として活用するなど、書店と出版社の一大イベントとして考え、一種のお祭りの要素がありました。

「静かな大会」になった要因としては、先ずスーパーストアーズの台頭から中小書店が閉鎖に追い込まれて参加者が減る一方、各出版社がスーパーストアーズやイングラムなどの巨大ホールセラーズへの新刊の売り込みで事足り、ABA参加費用の負担も考えて、年々出展規模を縮小してきたのではないかと思います。また、大出版社を中心としたディスカウントの不公平問題で、書店からの訴訟問題が発生したことも出版社のBookExpo参加を消極的にしたという意見もあります。さらに、昔からの名称であるABAが、BookExpoという名称に変わったこと、高額な入場料金(今年は3日間通して会員75ドル、その他125ドル)では、旅費を使って来場する地方の書店にとっては、例えBookExpoでのスペン



### 目次

|                       |     |             |   |                |     |
|-----------------------|-----|-------------|---|----------------|-----|
| BookExpo America 1998 | 1・2 | 出版文化史遺選⑧    | 4 | キャンパス・ライフ—内と外— | 6・7 |
| 理事会報告・文化厚生委員会だより      | 2・3 | パソコン外論考(其9) | 5 | 広告             | 8   |
| 海外ニュース誌               | 3   |             |   |                |     |

ャル・ディスカウントを受けても割が合わないことなどが、書店の入場者の減少につながったと推測します。米国以外の入場者では、欧州方面からの出版社は多くなったものの、東南アジアの経済不況で、例年参加していた書店やホールセラーズの方達が見当たりませんでした。来たくても来られなかったのでしょうか。今回の入場者数は25,672人（昨年25,732人）バイヤー数は6,962人（昨年7,402人）と昨年比微減でした。ここ数年参加を阻止していたセント・マーチン社（1990年以降）や、エーブラムズ社（1994年以降）が参加したものの、ランダムランドと呼ばれていたほど大きなブースを持ち、派手な飾り付けをしていたランダム・ハウス社などがブースを縮小し、また1993年頃から始まったCD-ROMの展示が殆ど見られなかったことなどから、「静かな大会」

の印象を受けたのではないかと思います。

大出版社や著者は今回の大会から復帰したといわれ、中には商売で成功したといっている出版社もあって、BookExpoを実質的な商売のみの場として位置づけているとも思われますが、今後の出版界の発展のためには、世界最大のフランクフルト・ブックフェアも重要ですが、BookExpoも毎年開催地を変え（来年は南カリフォルニアになるかも知れません）、各書店の負担が軽くなるような入場料金とし、各出版社はスーパーストアーズやホールセラーズだけではなく、中小書店との一体化を計るべく年一回の大会に費用をかけて販売活動を行えば、米国のみならず日本を含めた世界の出版界の活性化に繋がるとの感を深くしました。

日本出版貿易(株) 村上 祐之助

## 理事会報告

7月10日（金）於・ホテルサンルート東京

- ・規約改正委員会渡辺委員長より答申書が正式に提出された。
- ・答申書に基づく改正案全文全般にわたり各理事より所見が述べられ、以下の論点を主体に理事会案の骨子を取纏めた。
  - (1) 会員構成、協会の目的と事業
  - (2) 役員定数と選出方法
  - (3) 会費
- ・直ちに改正素案を作成（8月）、理事会案決定（9月）の後全会員に内容を提示して意見を聞き、臨時総会を招集（11月）して成立を図る。
- ・共同物流に関するアンケート結果および新委員会の編成状況が事務局より報告された。
- ・長年の会員であり理事も務められた第一出版貿易（株）の6月末退会を了承した。

## 文化厚生委員会だより

### つり同好会 キス釣り大会

どんよりと曇った6月6日、98年度最初の洋書輸入協会釣り大会。ターゲットは「キス」。参加者15名全員の目が輝いているようです。しかしそれとは反対に天候が気がかり。（天気予報の雨の確率は50%でしたが）。

船宿では釣友の久々の再会に雑談頻り、まもなく定刻の7時50分出船しました。今までは航程30分ほどで釣り場に到着でしたが今回は東京湾の最奥の浦安からの出船の為か航程約1時間40分。少しいら立ちながら、漸く目的地の大貫沖に着いた頃には今にも雨が降りそうな空模様です。やがて船長の「始めてください」の合図で各々いっせいに釣糸を垂らしはじめます。いつものように優勝を狙っているのか全員黙々と釣っているようです。2時間程たった頃から雨が降りはじめました。また寒さも増して、釣りとしては最悪の状況となってしまいました。私の隣りの人などは船室にとじ籠ってしまうほどでした。それでも何回か、つり場を変えながら続けましたが風も強くなった為午後2時半、納竿となりました。そのあとが大変でした。帰りは向い風のため波は高く、船もスピードを出せず、港に着くまで2時間半もかかり、もう全員グッタリの様子でした。さて成績のほうですが、優勝は鶴さん（東亜ブック）26匹、第2位がわたくし塚本（大洋交易）24匹、そして第3位は今井さん（洋販）23匹でした。悪天候のせいか4～5匹の人もいたようですが、どんな状況でも釣れれば楽しいものです。釣りに興味があって、まだ参加したことのない方は今度は是非一度いかがでしょうか。病みつきになりますよ。では次回の好天候の中での釣り大会を祈って、今回のキス釣り大会の報告といたします。

大洋交易（株） 塚本忠夫 記

高麗川カントリークラブ 1998. 6. 12(金)

梅雨のさなか、雨が心配されましたが、曇天ながら風もなくまずまずの天候でした。前回優勝の斎田さん(三善)のホームコースでもある高麗川カントリークラブは、関越道鶴が島ICより15~20分位と都心からも近く、緑豊かな武蔵野の素晴らしい丘陵コース。松と杉でセパレートされた広いフェアウェイのホールもあるが、ブラインドになった打上げ、打下ろしのホールあり、ドッグレッグの難しいホールありの変化に富んだコースでした。久々の5組20名の参加で賑やかなコンペとなり、スタート前の幹事の鶴さん(東亜ブック)の、初参加6名久し振り参加の2名の方々の紹介の声にも自然と力が入りました。

優勝は、斎田利幸さん(三善)の三連覇を阻む形となった夫人の斎田正子さん(三善)。初参加ながら、綺麗なフォームからの力強いショット、飛距離も伸びて美事なプレイを披露されました。2位も初参加でコースから10分の地の利を生かして(?)細川さん(UPS)、ドラゴン2本も併せて獲得の大活躍でした。3位は丸善の鈴木幹夫さん(初参加)。楽しくそしてキャディさんの言う通りにプレイできたとか、安定したゴルフは美事でした。ショットもパットも良かった久し振り参加の雨宮さん(タトル)が4位に入賞。5位は新たに文化厚生委員にもなられた宮川さん(丸善)初参加での活躍でした。次回も多数の参加を!

対日輸出急増!

アメリカ商務省の試算によると、1998年1~3月の3カ月間でアメリカの書籍輸出金額は2.7% up の4億3,490万ドルに上ったとのこと。輸出金額増加の最大要因は、その経済状況から見て驚くべきことに日本への輸出増で42.9% up の4,280万ドルにも上った。イギリス及びオーストラリアへの輸出も堅実な伸びを示し、各々15.7% up (5,780万ドル)及び26.9% up (3,370万ドル)であった。アジア各国への輸出は香港(6.6% up)を除いて軒並み減少し、フィリピン52.7%、韓国50%、シンガポール33.3%、台湾17.3%減という結果であった。他に輸出が急激に減った国は、メキシコ(17.3%)、ドイツ(25.7%)、オランダ(17.3%)、ブラジル(41.5%)などであった。

分野別の動向は、学術書が5% up の1億3,820万ドル(その内教科書は2.7% up で7,540万ドル)、宗教関連書は30.4% up の1,280万ドルが輸出されたが、百科事典系の出版物は大幅に(45.9%)減少した。

同時期の輸入も9.8% up して3億1,920万ドルに上った。中国からの輸入は56.6% up して2,120万ドル、カナダからは21% up の4,980万ドルの輸入であった。イギリスは依然輸入相手国として筆頭の地位を維持し、この3カ月間で14.9% up の8,050万ドルを米国に輸出した。第2位の香港は10.9%減少して4,210万ドルにとどまった。

PUBLISHERS WEEKLY/JUNE 15, 1998

| 成績表   | G      | HC | NET |
|---|--------|----|-----|
| 優勝 斎田正子 (三善)                                | 101    | 26 | 75  |
| 2位 細川政敏 (UPS)                               | 96     | 20 | 76  |
| 3位 鈴木幹夫 (丸善)                                | 101    | 22 | 79  |
| 4位 雨宮孝行 (タトル)                               | 102    | 22 | 80  |
| 5位 宮川修 (丸善)                                 | 105    | 25 | 80  |
| ベストグロス 斎田利幸 (三善)                            | G87    |    |     |
| ドラゴン 村上道夫 (東京ブックランド) 鈴木幹夫 (丸善) 細川政敏 (UPS)×2 |        |    |     |
| ニアピン 和田茂 (大洋交易) 池田篤治 (極東書店) 西山久吉 (西山洋書)     | (H.N記) |    |     |

お詫びと訂正

1997年12月号収載の「1998年度主要国際書籍展一覧」に誤りがありましたので以下のように訂正します。

書籍展名: INTERNATIONAL BOOK FAIR, BEIJING

開催期間: (正) 8/28~9/2

(誤) 9/2 ~9/8

ご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。

会報委員会

## ウェブスターの輸入と日本近代化〔7〕

丸善・本の図書館 鈴木陽二

## ●ウェブスター辞書の日本近代化への影響(2)

ウェブスター辞書の日本近代化への寄与は同辞書の使用という直接的なものだけではなく、日本で編纂された英語辞書を通しての間接的な受益も大きかった。今回は明治期前半の英語辞書が受けたウェブスターの影響を、早川勇先生著『ウェブスター辞書と英和辞典』および『日本英語辞書年表<終戦まで>』を参照して大雑把に紹介してみることにしたい。

明治期に日本で刊行された英語辞書は、語学辞書だけでも330点を超える。その中では特にウェブスターを底本にして編纂したものに重要なものが多く、その辞書を参照して新たな辞書がさらに制作されるという具合に影響が波及し、そういう意味で、結局明治期のほとんどすべての英語辞書が多かれ少なかれウェブスターの影響を受けたと見ることができるようである。

ウェブスター辞書の影響は、慶応2年に刊行された堀達之助他編『改正増補 英和対訳袖珍辞書』あたりからすでに見られたようであるが、明治初期の代表的なものでは、始めてウェブスター式発音記号を使用した前田正毅・高橋良昭編『大正増補和訳英辞林』(明治4年)や柴田昌吉・子安峻共編『附音挿図英和字彙』(明治6年)などが黎明期英学に大きく寄与した辞典である。後者の場合「附音」はウェブスター式発音表示を使用したものであり、また豊富な図版を収録した「挿図」はウェブスターから多く流用した。

明治中期に評価が高く盛んに使われた英語辞書は、尺振八訳『明治英和字典』、島田豊編訳『附音挿図 和訳英字彙』およびイーストレキ・棚橋一郎共訳『ウェブスター氏新刊大辞書と和訳英字彙』であったという。尺振八の『明治英和字典』は主としてウェブスター辞書を底本にした最初の英和辞典で明治18~22年に刊行されたが、“National Pictorial Dictionary”(1859)を翻訳・編集したものであった。幕末・明治期の著名な英学者の手になったこの辞書は、斬新な訳語や語義区分の明確化など画期的なものであり、後続の英和辞典の編纂に大きな影響を与えたという。

島田豊編訳『附音挿図 和訳英字彙』は明治20年(奥

付は明治21年)の出版である。これはウェブスターに準拠した本格的な辞書と評されたもので、1879年版のウェブスター大辞典を使用したものであろうと判断されている。明治24年に大幅な改定増補版を刊行しており、大いに流布したのはこの版のようであるが、初版発行より明治25年まで7版を重ねて広く使用された。

「附音挿図」が上梓された翌年の明治21年に、明治中期の英語辞書界を席卷したF. W. イーストレキ・棚橋一郎共訳で『ウェブスター氏新刊大辞書と和訳英字彙』が三省堂より刊行された。このウェブスターは「辞書の三省堂」としての同社が単独で企画・刊行した初めての記念すべき辞書であった。イーストレキは幕末に来日して英字新聞の発行に携わったりしたが、その後「国民英学会」「日本英学院」「正則英語学校」などを設立して明治前半期における日本の英語教育に大きな貢献をした人物である。棚橋一郎は都文館や東京高等女学校を設立した教育家で、後年代議士や東京市会議員をつとめた人物であった。この辞書は、編集方法のみならず収録語彙の決定、発音と品詞表示、語義の分類と領域レーベル、挿絵と付録、などウェブスターにほぼ全面的に依存した。発行されるや、英学会に好評をもって迎えられて広く浸透し、明治43年まで57版を重ねた。

ウェブスターの影響は以上の例で見たように英語辞書に止まらず、国語辞典の編纂にも影響を与えた。大槻文彦は『言海』の編集者として不朽の名声を博したが、洋学者であった彼はウェブスターの影響をうけた英語辞書を編纂しており、ウェブスター辞書には精通していた。『言海』は明治22~24年に4分冊で刊行されたがその序文に「米国ノ碩学エプスター氏ノ英語辞書中ノ「オクタボ」ト称スル節略体ノモノニ倣ヘリ」と記しているように、リップンコット社発行のロイヤル・オクタヴォ版を参考にして編集したようである。

以上、ウェブスター辞書が日本の近代化と係わったわずかのケースを明治期前半に探ってみたが、短いスペースと時間で当然舌足らずになってしまったことをお許しいただきたい。〔参照図書：早川勇著『ウェブスター辞書と英和辞典』/早川勇編『日本英語辞書年表』〕

## パソコン外論考 (其9)

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆求む! 援(助)交(際)。/Someone to watch over me  
子曰、徳不孤、必有鄰、

The Master said, 'Virtue never stands alone.

It is bound to have neighbours.'

(論語/里仁・Confucius; The Analects/Book IV)

【超拙意訳; 先生は言われた。「徳を重んじる人は、決して孤立しているわけではないと思うんだな。必ずや、この徳を重んじている人を理解した隣人が出てくるよ。世の中捨てたもんじゃないよ!】

【外注; 鄰は、隣の正字。意味は、村里。横浜にベースを置く大手書店「(株)有隣堂」の由来も「論語」のこの章からと勝手に推論しています。】

【蛇足; 「鄰」=JIS-code/6E43、区点code/7835】

OSのWin98発売11日前。Win98景気に沸いていると想像して、久しぶりに東京・秋葉原にWindow-shoppingに出かけました。見事に期待を裏切られました。チョー大手の量販店は潰れてなし。パソコンショップの盛者必衰(出典; 平家物語)の理どおりといっても、あまりにも栄枯が早すぎてついていけません。そして、一部のパソコンショップを除いては、「Win98」ハァ?ってなものでした。で、アキバでは某宗教がらみのショップ(複数)の「ちらし」配りのお兄さんがやたら元気だったのが印象的でした。

しかし、多少人の出入りがあったのは、今流行りのBTO(Built-To-Order)のショップでした。

互換CPUの①AMDのK2-300MHz(あのPentiumの同クラスの物より数段速い。ただメモリーやグラフィックスボードなどの組み合わせにより違いはでるが…)で、約11~12万円。最新の②Pentium II 350、400MHzセットで20~24万円(共に発売予定の'Win98'付き)。

そこで、【宇田川の諦念・推奨割切りコンピューター】は、断然①で決まりです。断言します。これ以外のものを買ってはけません。そして、1乃至2、3年使用したいと思っているのであれば、この①のマシンに、将来を見込みOSとしてUNIXを積んで使いたいものです。猫の目みたいにコロコロとversion-upと称してbug(虫・欠陥ですな)をとっているMS-DOSの3XX、5XX、6XXとかWin3.1とか95、98なんかのOSを当てにしないで、いききたいものですが……。

ということで、永年おつき合いを願っているアキバの

パソコン界のDon(スペイン語の男性敬称のつもり)の一言がよかったです。「ウダさん、今からはLANとか、NetworkとUNIXペースで決まり。Windowsの95とか98とか言ったって、残るのはWinNT(New-Technology)に収斂されて行くんじゃないかな。不安定なWinよりも、永年使い込まれて動作も安定しているUNIXでマシンを作った方がいいよ。K6/2の300MHz、OSはUNIXで15万8千円、買って行ってよ!」

思わず欲しくなりましたね。(筆者も今からUNIXを勉強しなくては……)

で、翌日(7月15日)。箱崎水天宮にあるホテルにて、かつては「無敵艦隊・不沈空母」とも称されたわが国最大手のパソコンメーカーN社の『Win98搭載のパソコン・21機種54モデル』の凄まじいまでのラインアップ発表会に出てみました。CPUもIntelのP/233~400MHzまで、MMX/200~233MHzまで、安いものはopen(この価格表示は困ります。何がopenか。価格的には19万8千円的なもの)から最高価格のP-400MHz/Microsoft社のワードプロセッサと表計算ソフト付きで、なっ何と!69万円。

唸っちゃいました。これで「個人向けラインアップ」といわれますと……。

パソコン選択購入の基準には、次のような「合言葉」があります。1スジ2セン3トレンド。

- 1)スジ=売れ筋は、PC/AT互換=DOS/Vマシン。
- 2)セン=売れ線は、俗にいわれる1,000ドルマシン。日本式に言えば、12~3万円マシン。
- 3)ナガレ=これはトレンドです。Macintosh-OSよりも、しゃくだけどWindows搭載のものでしょう。だけど、ここ1~2年でUNIXに移るでしょう。

そこで、話はかつての「デパート方式(無いものはない。車でいえばトヨタ・日産スタイルの間こえはいいが、消費者の志向無視のピンキリラインアップ)」のフルラインアップを発表したN社に戻ります。N社は、月間販売目標台数として約15万、年間だと180万台。

うーん、最高速のパソコンでBTOショップだと25万円どまりのものが、ソフトが付いているとはいえ69万円でも売れるのか?売れるんです。N社は業績的には堅調とか、企業向けで……。と、当日N社の責任者がいました。最後に「当社はBTO的な、1,000ドル的なパソコンは当分売らない」と。「論より商魂」。

次回から、パソコンと漢字の話を予定しています。

## キャンパス・ライフ —内と外—

島岡 丘

日本では、長年、職場を変えることなく定年を迎えるというのが一般的な傾向のようだ。その利点もないわけではない。同じキャンパスで年を重ねるにつれて、若いときにはよく見えなかったことがよりはっきりとしてくるようになってくる気がするが、これは希望的観測だろうか。私の定年後新しく勤め始めた大学は、JR駅に隣接し、高速道路のインターにも近く、その上、研究室から太平洋が一望できるので、私なりに満足している。

自分のオフィスで好きな文献を読み、知識の蓄積だけでよければ申し分ないが、キャンパスでは、研究の他に、教育と運営・サービスの分野がある。20数年前、筑波大学創設のときに当時の福田信之学長が教官対象にオリエンテーションのときに言われてことが耳に残っている。

「先生方は研究がお好きだから時間をすべてご自分の研究に使われてしまう。しかし、これでは創設しようとする新しい大学は成り立ちません。少なくともご自分の時間のうち、1/4は大学全体のために使ってほしい。」と訴えられた。

その後私も役職について、人間がエゴイズムを押さえ、互いに協調できるような体制や状況を作るのがいかに難しいかを痛感させられた。どうせやらねばならないなら、むしろ積極的に取り組んだほうが人生が楽しくなるのではないかと思うのだが。

研究、教育、運営・サービスをバランスよくやるためにはそれなりの配慮が必要である。それぞれ独立している部分もあるし、補いあうところもある。

教育は20歳前後の若い学生たちにどうしても教えるべきまた学ぶべきことがあるが、研究は時代の流行のようなものがあり、教育の現場と直結しないところもある。

ただし、研究上の流行は服装、たとえばスカートの長さとか、水着、男性のネクタイの幅などの流行とは異なるということを恩師の先生から伺ったことがあるが、その意味はこうである。スカートの長さが時代と共に変化するのは、必然的な理由があるわけではない。スカートの長短を変えることで、購買意欲を喚起し、景気をよくすると連動するとも考えられる。しかし、研究のほうはそういう流行では本質的に異なる。ある目標を徹底して押し進めていくと行き詰まるところが生じることがある。そこで新しい解決法を求めて新しい流れが生じる。研究

上の流行は累積的 (cumulative) で没個人的 (impersonal) であると、かつて C.C. Fries が *Linguistics and Reading* の名著に書いているが、その通りではないかと思う。

研究をきめ細かく押し進めることを ground hugging と言うそうだ。hug は「抱擁する、相手をきつく抱く」の意味であるが、それはちょうど地面にしっかりと根をはって強風が吹いても飛ばされないようにがんばっている山頂付近に生えているはえ松やカリフォルニア州の太平洋海岸線に沿って生えている cypress tree の姿を想像させる。

研究は逆 T 字型で行われることが多い。一つのテーマと取り組み、これ以上突き進めないところまで進む。そこで行き止まり (deadlock) にぶつかったときに隣接科学に目を向けざるを得なくなり、新たな視点から取り組むことになる。第3者から見ると単なる流行に見えるかもしれないが、内部から見ると必然的帰結であると言える。

教育は若いときに、できるだけ広い分野の知識を身につけ、自分の興味と潜在性を発見するようになればよいと思う。あまり、最初の段階で狭いところだけをやると、それぞれがもつ潜在力などに気づかないで一生を過ごすことになり、それは極めて残念なことである。この意味では、教育のプロセスは研究のそれと違って、T 字型がよいのであろう。最初は幅広く知るうちに自分の興味関心がもてる分野を見つけることになる。

最近はいわゆる少子化の波で、学生獲得のためにサービスに力を入れるようになってきている。その運動の一つに学校訪問がある。

教育実習で学生がお世話になる中学や高校を回ってご指導をお願いに行くのであるが、最近はそのだけでなく、受験生の獲得のための学校訪問が必要になってきたらしい。受験生の獲得には、「キャンパス・オープン・デー」を設け、関心のある高校生に大学の様子を知ってもらうのでよかったが、最近ではこれでは十分でないらしい。

大学の入試委員だけでは限りがあるので、一般教員も協力することになる。一人の教官が数校訪問すれば100人で数百校を訪れることができる。

私も学校訪問の行事に加わることになったが、未知な場所を地図を頼りに車を運転しながら、回るわけである。“Real deaths are less than horrible imaginings.” とシェイクスピアの台詞通り、道が不案内でくよくよ心

配するより、実際に車を運転して行って見ると、案内簡単に見つけられるものだ。地方に行くと学校の建物は遠くからでもすぐに目に入るのである。昔の木造平屋か2階建ての校舎はほとんどなく、今は4階建ての立派なコンクリート建築である。

受付に訪問の趣旨を伝えると、進学相談係の先生のとこに通されたりすることもあるが、できれば校長に会うほうがよいだろう。

校長室に通されてまず目に入るのは、歴代校長の写真、学校の鳥瞰図、優勝旗や優勝カップ、それに校訓である。

知り合いのカナダ人に日本のどの学校にもある校訓がカナダにもあるかどうか聞いたところ、そういうものは知らないという返事だった。おそらく、学校は各コミュニティの一部という意識があって、学校独自のモットーは設けないのかもしれない。日本の各地に求めているALTに出身校の校訓があったかどうか聞いてみると、教育過程におけるささやかな日英文化の比較ができるのではないかと思うがどうであろうか。

私の勤務している大学は、キリスト教と直接の関わりがないが、校門に入るとすぐ左手に置かれている大きな白光りの石に「求めよ」と筆字が彫り込んである。もちろん新約聖書の山上の垂訓、「求めよ、さらば与えられん。」の一節からの引用である。求めれば必ず得られるほど、世の中は甘くはないが、大学院を擁する学園の姿勢としては望ましいものと思う。最近では中学・高校の現役の先生が修士号取得のため、茨城キリスト教大学の大学院のような昼夜開講のところをめざして再学習をするようになった。21世紀になってこの傾向はさらに増えるのではないかと思う。

「校訓」というものは明治の時代から脈々と続いていることを、日本英語教育史学会での研究発表を伺って知った。振りかえてみると、戦後も、中学や高校の校訓はなくなり、それぞれの学校の校訓が伝統と結びついて維持されたのはよかったと思う。私は二つの高校を経験したが、一つの方の高校には、木造校舎の壁に誰でも目に入るように、白いペンキで大きくカタカナで「シマレガンバレ」と書いてあった。その後、建物も木造からコンクリート建築になり、男女共学になってから、その校訓はどうなったかわからないが、「シマレガンバレ」の校訓を毎日見て過ごした、先輩に傑出した人材が少ない。

私は茨城県の中学や高校を訪れる機会が多いが、訪ず

れた学校でたまたま臨時会議中などで、校長室で待たされることがある。そんなとき、校長室に額縁に入った校訓を、ほかの学校のものと比較したりしていると、待たされる時間はかえてありがたい。最近訪れた岩間中学の校訓は強く印象に残っているので、披露したい。

岩間中学には校訓のみか教育目標も定められていた。校訓は立派な筆字でこう書いてあった。

#### 校訓

自主に生き

望み大きく

健康であれ

#### 本校の教育目標

知性に富み心身共に健康で

旺盛な意志と実践力を身につけ

社会に貢献できる人間の育成を期する

- 1 進んで学習に励み、創造性豊かな考えをもった生徒
- 2 人間愛の精神に富み、協調心をもった生徒
- 3 健康なからだとたくましい気力をもった生徒

世相がいろいろ変わっても、海外から見ると、日本の中等教育が実に立派に見えるらしいが、それは理由のないことではないと思う。

以上のような校訓や教育目標の実現に向けて、がんばっておられる多くの先生方また先生方に全幅の信頼をお願いされる父兄に支えられている面があることを知っておきたい。また、各教科にはそれぞれ教科目標があるが、学校の教育目標と有機的なつながりがあることが望ましいのは言うまでもない。目標の意識があまりない学園では、心に隙間ができ、それが多くの問題を引き起こすのではないかと考えている。

(茨城キリスト教大学教授)

#### 事務所を移転しました

会員名：インターナショナル トムソン  
パブリッシング ジャパン

新住所：〒100-0003  
東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
パレスサイドビル 5階

Tel : (03)5218-6544

Fax : (03)5218-6551

移転日：1998年7月6日

新着  
在庫

コロンビア大学出版局の

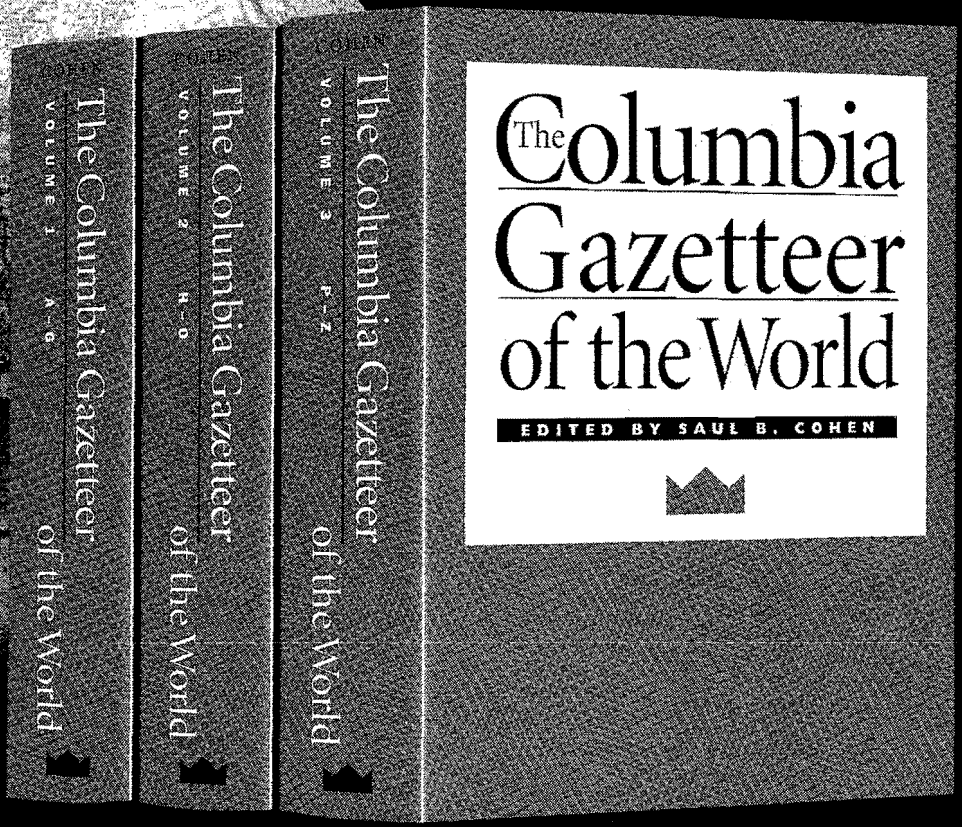
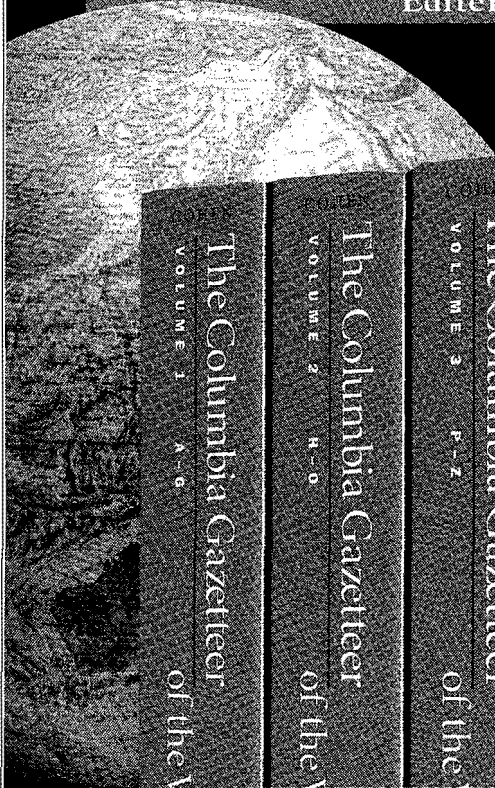
地名辞典  
の  
決定版

# 世界地名大辞典

## The Columbia Gazetteer of the World

Editor: Saul B. Cohen

1998年5月刊行 4500頁 8½"×11"  
全3巻 セット価153,000円 0-231-11040-5



**Columbia University Press**

日本総代理店 **ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社**  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-9 研究社ビル 電話(03)3291-4541(代表)

\*記載の価格は消費税抜きの価格です。また為替相場の変動等により変わる場合があります。ご注文の際はISBNをお知らせ下さいませようお願いします。

1998年7月 通巻第374号 洋書輸入協会 編集者 高橋 紘  
☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本綜合印刷株式会社